

代表質問

鳥取県議会自由民主党



安田 由毅 議員
選挙区
境港市



本県の財政見通し

問 高市政権が掲げる「強い経済」や「成長投資」などの施策は大都市圏への集中を想起させる。そもそも地方が育てた人材が都会で働き、都会に納税しており、地方に還元する交付税制度の見直しも必要ではないか。税源の偏在是正にどう取り組むか。

答 大企業の本社が東京に移転しているほか、インターネット取引の中心も東京になるなど、東京に富が集中。法人関係税は全て国へ上げて、消費税は全て地方にもらうといった、思い切った施策を検討する議論が必要と考える。

境港の水産クラスター形成

問 境港では、冷凍・冷蔵施設が

老朽化。水産関連商品の高付加価値化のため生産から加工、造船業も含め、一連の流れとして地域産業クラスター事業に位置付け、支援が必要と考えるがどうか。

答 境港の水産品物流のボトルネックと言われるのが冷凍・冷蔵庫。整備を支援する国の補助制度への採択も競争が厳しい。地域産業クラスター事業の中への位置付けも視野に入れ、冷凍・冷蔵施設の更新、機能強化を図っていく。

工業団地造成の波及効果

問 境港の昭和地区工業団地、竹内工業団地が、中海・宍道湖・大山圏域にもたらした効果は。

答 昭和30年代以降、境港市内に、昭和地区工業団地、竹内工業団地、西工業団地を造成。それまで散在していた水産加工業が集まって団地化し、食品加工業も立地し始めた。さらに平成になると廃棄物処理業も立地するようになり、港湾整備前の昭和35年頃に比べると製品出荷額は20倍以上となった。工業団地の造成が中海・宍道湖・大山圏域の産業振興のきっかけと

なったと考える。

不妊治療の体制整備

問 今春、鳥取大学医学部附属病院が、複数の診療科と多職種の人材連携により生殖医療を行う「高度生殖医療センター」を開設。しかし、専門スタッフの育成、確保が課題とお聞きした。両親の願いを叶えるため、県としても取組が必要ではないか。

答 現在、約8・6人に1人が医療の助けを受けて誕生されており、生殖医療の分野を専門にするクリニックとも連携し、生殖医療の体制を守っていく。併せて、両親の高齢化も踏まえると、専門医や生殖医療に必須となる「胚培養士」などの技術人材も不足。専門医や専門人材の養成に向け、関係者とも協議して、資格取得等への財政的支援も検討してみたい。

看護師養成施設のあり方

問 看護師等養成施設の受験者、入学者は伸び悩み、人材確保が不安定な状況。国では2040年を見据えた検討会を設置。県も長期的な視点で看護師養成、確保策を検討していくべきではないか。

答 2040年を見据えて、看護師の需給状況調査を考えたい。看護師の供給が減ると同時に、需要

も減る可能性がある。医療だけでなく、介護の需要も含めてよく見定めたい。

強度行動障がい者への支援

問 強度行動障がい者について、支援を受けている方の人数、受入れ可能な施設の定員、入所待ちの状況など、実態を把握できているか。

答 令和5年度と6年度に、市町村などと連携した調査を実施。今年度は障がい者プランを改定予定であり、詳細な調査を行い、人材確保や育成策、補助制度の拡充など、今後の施策を検討したい。

県立高校の高専化

問 知事は県立高専を提案されたが、高専には県外からの求人が多く寄せられる。また、県立農業大学校などが既にある中、あえて県立高専を提案した狙いは何か。

答 構想を提案したのは、県議会や産業界の考えを見させてもらうため。まずは、協議の場をつくり研究を進めることに、議会の賛同が得られれば、議論を深めていく。また、国の補助制度を活用するためにも、今年度中に進めるかどうかを決める必要がある。意見集約を速やかに図りたい。